

平成29年度
事業報告書

社会福祉法人 上田明照会

目 次

ページ

1～2	法 人
3～4	甘露保育園
5～7	蓮の音こども園
8～9	ともいき宝池慈光
10～11	ともいき宝池和順
12～13	ともいきライフ月影
14～15	ともいきライフ住吉
16～18	上田市母子寮
19～20	上田明照会グループホーム
21～22	相談支援センター ほっと

平成29年度 社会福祉法人 上田明照会 事業報告書

1. 役員会・評議員会等の開催状況

	開催年月日	出席人数	決議事項
理事 会	I 29年5月26日	理事6名 監事1名	①平成28年度事業報告について ②平成28年度決算報告について ③平成28年度監査報告について ④定款変更について
	II 29年6月14日	理事6名	①鍛冶町児童福祉施設整備事業(外構二期工事)に係る工事請負契約について
	III 29年6月16日	理事6名	①理事就任の承諾について ②会長の選出について
	IV 29年6月27日	理事6名 監事2名	①鍛冶町児童福祉施設整備事業(蓮の音こども園)に係る工事請負契約について
	V 29年10月6日	理事6名 監事2名	①平成29年度第一次補正予算について ②育児休業等に関する規則の変更について ③経理規程の変更について
	VI 30年3月15日	理事6名 監事2名	①平成29年度第二次補正予算について ②平成30年度事業計画について ③平成30年度当初予算について ④就業規則等の変更について ⑤事務処理規程の変更について ⑥運営規程の変更について ⑦施設長異動について
評 議 員 会	I 29年6月16日 【定時評議員会】	評議員7名 理事6名	①平成28年度事業報告について ②平成28年度決算報告について ③定款変更について ④役員を選任について
	II 29年10月17日	評議員7名 理事6名 監事2名	①平成29年度第二次補正予算について ②育児休業等に関する規則の変更について ③経理規程の変更について
	III 30年3月23日	評議員7名 理事6名 監事2名	①平成29年度第二次補正予算について ②平成30年度事業計画について ③平成30年度当初予算について ④就業規則等の変更について ⑤事務処理規程の変更について ⑥運営規程の変更について ⑦施設長異動について

[監事監査] 平成29年5月25日 平成28年度 事業監査

2. 評議員及び役員を選任・任期満了

○評議員（7名）就任（平成29年4月1日付）

辺見 政嗣 中嶋 英見 宮本ミエ子 小宮山利男 井出 安俊
丸山 竹彦 宮島 範之

○役員（理事6名・監事2名）任期満了（平成29年6月16日付）

理 事 横内 浄真 務台 義秀 武捨 幸雄 田口 真司
神原久美子 大野 政博
監 事 土屋 和昭 小池 功二

○役員（理事6名・監事2名）就任（平成29年6月16日付）

理 事 横内 浄真 武捨 幸雄 田口 真司 神原久美子
大野 政博 田中 悠一
監 事 小池 功二 松井 清和

平成29年度 法人重点項目の取組みについて（報告）

① 鍛冶町児童施設の施設整備について

創立100周年記念事業として計画した「鍛冶町児童施設の整備」のうち、甘露保育園の整備は、平成28年度末（平成29年3月末）に竣工し、計画2年目の29年度は、蓮の音こども園の整備を実施した。工事は順調に進み、当初の予定通り平成29年度末（平成30年3月末）に竣工することができた。

今後は新園舎の環境・設備等を活かして、特色ある魅力的な保育・療育の提供に努力を傾注し、地域における子どもの福祉拠点としての機能を高めていく。

② 創立100周年記念事業の準備について

記念事業の3本柱として、「鍛冶町児童施設の整備」と併せて「百年誌の刊行」「記念式典」の準備を進めた。記念誌編纂作業は関係各位の努力と協力により目標とした平成30年6月には約200ページに及ぶ記念誌が『創立百年史』として刊行できる見通しとなった。

記念式典についても平成30年9月16日（日）挙行とし、着々と準備が進んでいる。

③ 101年目以降、10年間の「法人中長期計画の策定」に向けての検討について

29年度は、創立100周年記念事業関連を中心として労力を傾注することとし、中長期計画策定に向けた検討は平成30年度に重きを置くこととした。

④ 法人理念・各事業所の重点項目をより円滑に取組むための各会議・委員会活動について

各会議・委員会のまとめ資料については別添資料のとおり。

⑤ 地域・社会貢献の充実に向けた具体的な取組みについて

○ロータス（発達・育児相談、家族の応援）は「蓮の音こども園事業報告書」に記載のとおり。

○ほっと（障がい福祉サービス利用の計画相談・モニタリング）は「相談支援センターほっと事業報告書」に記載のとおり。

○ハート（心の相談・ケア）は別添資料のとおり。

○上田ともいき処（地域福祉応援）は別添資料のとおり。

平成29年度 甘露保育園 事業報告書

1. 施設の構成 定員 90 名
 《職員》 園長 主査 主任 リーダー 保育士 看護師 栄養士 調理員

2. 月別開園日数及び初日在籍人員

月	開園日数	在籍園児数				合計
		4歳以上児	3歳児	3歳未満児	0歳児	
4	24	40	17	33	2	92
5	24	40	17	33	2	92
6	26	40	17	33	3	93
7	25	40	17	33	4	94
8	23	40	17	33	5	95
9	24	39	17	33	5	94
10	25	39	17	33	5	94
11	24	39	17	31	6	93
12	23	38	17	31	6	92
1	23	38	17	31	7	93
2	23	38	17	32	8	95
3	26	38	17	33	8	96
計	290	469	204	389	61	1,123

市町村別内訳 上田市 1,112人
 (県外) 都留市 5人 高崎市 6人

3. 年間行事等実施状況

月	内 容
4	入園式・家庭訪問・上田仏教会花まつり(年長)・花見散歩
5	花まつり・親子遠足(小諸懐古園) さつま芋苗植え交流(年長)(ともいきライフ住吉)
6	交通安全教室・プール開き
7	七夕まつり・アクアプラザ水遊び(年長)・夏まつり 地域交流事業(ピアノ・フルート・琴・うたのコンサート)
8	魂まつり・1期終業式・プール参観(幼児組)
9	保育参観試食会(2歳)・祖父母参観・保護者会作業・運動会
10	秋の遠足(信綱寺・リンゴ狩り呈蓮寺・別所温泉・市民の森乗馬クラブ)・観劇会 さつま芋掘り交流(年長)(ともいきライフ住吉)・保護者会バザー
11	保育参観(幼児組・1歳児)・感謝訪問(勤労感謝)・子育てコンサート・七五三
12	成道会・成道会発表会・防犯訓練・もちつき会・クリスマス会 個別懇談会(年長)・2期終業式
1	ものづくり・どんど焼き・個別懇談会(幼児組・1歳児)
2	豆まき会・涅槃会・懇談会(2歳児)・新入児連絡会・かんろっこ劇場
3	ひな祭り・お別れ会・懇談懇親会(年長)・3期終業式・卒園式

毎月・・・誕生会・避難訓練・身体測定

4. 職員研修

県及び市の保育園連盟主催、私立保育園協会主催の各種研修会
 法人内研修会

5. 施設整備

園舎外構工事

6. 援助結果及び課題

① 保育内容と家庭支援

これまで積み重ねてきた子ども一人ひとりの発達のペースをしっかりと見極め、その一人ひとりの特性に応じた丁寧な保育を実施してきた。また、今年度研修してきた新保育所保育指針に示されている“子どもの自主性を生かす”環境づくりとを合わせて、子どもの生活（デイリープログラム）の見直しを実施してきている。

建設が続いている新園舎でのドライブスルーによる送迎対応については、保護者との個別での対応が実施できなかったため、全クラス保護者面談を実施した。これにより、詳細を確実に伝えることができ、信頼関係を構築していくことができた。

母親の復職により、0歳児5名、1歳児1名、上田市母子寮より0歳児1名の計7名が年度途中での入所となった。新園舎の広い保育室でゆったりと落ち着いて受け入れ、対応することができた。

病児保育に関しては、病児に対する家庭の理解をいただき、昨年より対応件数が少なく135件となった。一番多かった時期は8月で20件。年齢別では、2歳児が35件であった。

課題を抱えた3つの家庭に対しては、児童相談所や小中学校等関係機関との連携により、その家庭が本当に必要としている支援につながるよう、それぞれ役割分担をして、支援を継続していった。その内の2つの家庭の子どもは、児童養護施設へ入所となった。

② 食育

「毎日の給食が食育である」という考えのもとに、保育士と給食職員との連携により、子どもたちへの食の体験を増やし、食材クイズなどの新たな取り組みを実施していくことで、子どもが食材の種類や知識を得ることにより、食べることへの意欲につなげていくことができた。

おやつ時間において、情報共有・連携の不十分による誤食が起きてしまった。原因としては、過去1年以上の誤食が起らなかったことによる過信と、アレルギー症状の重い子どもが退園したことによって生まれた気の緩みと考えられる。改めて職員全員で再発防止策を検討し、周知徹底を実施した。

③ 地域との関わり

園開放として、昨年と同様に蓮の音こども園と共同しておもちゃ図書館を8回、絵本の日は「遊びの広場」を9回実施した。新園舎という事もあり注目度も高く、特に入園申請前の9月(17人)、10月(21人)は大勢の未就園児の親子が集まった。29年度は、「親子の触れ合いを深める」「甘露保育園をより多くの方に知ってもらおう」ということを目的に充実した内容で実施することができ、32人の入園申請につながった。保育士・看護師による相談は3ケースあり、内容は子どもの病気や発達に関しての相談であった。

～全体を通して～

保育を取り巻く環境が大きく変わっていく中で、保育所に期待される役割も多様化してきている。保育所保育指針が改定となるが、改めて「子ども主体」「環境を通じた」遊びや学びの重要性が位置づけされた。各々の立場で保育を見直し、改善する良い機会と考えて、子どもたちのための質の高い保育実践に努めていきたい。

平成29年度 蓮の音こども園 事業報告書

1. 施設の構成 定員 30名

《職員》 園長 主任・児童発達支援管理責任者 主任 保育士・児童指導員
作業療法士 管理栄養士 看護師 調理員

2. 入園児地区別利用契約人員及び療育日数

市町村	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
上田市	34	34	35	35	34	34	34	34	34	34	34	34	410
坂城町	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
その他	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
合計	39	39	40	40	39	39	39	39	39	39	39	39	470
実開園日数	20	23	26	25	22	22	25	24	23	22	23	20	275

3. 入退園の状況

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入園	15	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16
退園	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	18	19
退園理由	保育園（他事業所等）移行 5 就学 13 その他 1												

4. 通園車走行状況

1号車（セレナ） 9, 943 km
2号車（リバティ） 6, 225 km

5. 年間行事実施状況

月	内 容	月	内 容
4	入園式 親子遠足	10	
5	運動会 花まつり 家庭訪問	11	どろんこ祭 ライオンズ招待行事 七五三 総合防災訓練
6	家族参観 プール活動	12	クリスマス会 成道会
7	七夕 家族参観	1	新年会 どんど焼き ももたろう展 家族参観
8	魂まつり 父親懇親会		
9	母親懇親会 親子遠足(ら)(き)(う)	2	豆まき 家族参観 バイキング給食
	カレー会	3	ひな祭り お楽しみ会 卒園式

避難訓練：毎月

6. 職員研修等

- ・上小地区心身障害児者施設連絡協議会事業所『代表者会』『主任者会』
- ・地域自立支援協議会『発達専門部会』 ・苦情対応システム研修
- ・朝日新聞厚生文化事業団 朝日夏季保育大学 ・うめだ・あけぼの学園 夏季セミナー
- ・全国児童発達支援協議会 関東ブロック ・発達協会
- ・朝日新聞厚生文化事業団 自閉症カンファレンスNIPPON
- ・強度行動障害支援者養成研修（基礎研修・実践研修）

7. 施設整備

蓮の音こども園新園舎建設

8. 療育援助結果及び課題

① 発達支援

平成29年度も全園児の57%が発達障がい確定診断を持ち、精神発達遅滞23%と未診断5%の子どもたちは現場の認識では発達障がいを重複していると捉えているため、全体の80%以上が発達障がいを前提とした支援の提供が必要であった。「～ねば、ならない」と言った強いこだわり、刺激に対して即行動を起こす、制止されると激しく抵抗を示すなどの衝動性の高さを特徴とする園児に対しては、個々に子どもたちの行動分析を行い、知的な理解が未熟な段階であればあるほど、子どもの視界から刺激物を除去し、環境を整える必要があった。前年度から支援を開始している子どもたちは1年の歳月の経験値と集団への意識の向上が見られ、子どもの成長の手応えが職員の自信につながり、長いスパンで一貫性と継続性を持った根気強い支援の実践の意義を改めて確認する事ができた。リスクと隣り合わせの状況の中で、子どもの意思決定を確認する作業は深めることができず、今後の検討課題として残ることとなった。

② 家族支援

保護者は、子どもにとって一番身近な存在であり、子どもにとって一番の理解者でありつつ、子どもの抱える困難に一番に立ち向かう立場と言える。保護者の中には子どもと同じような特性を有している場合も珍しくなく、子どもの抱える困難さの理解に自身の経験を踏まえ共感的に受け止め、子どもの理解の助けになる事もある。その反面、保護者自身がつらい経験（いじめや被虐待経験など）がある場合や自らの特性と折り合いのつけ方が難しい場合は子育てそのものが非常につらいものになってしまう。また、保護者自身の価値観が生活の中心となり、保護者主体での優先順位の決定・行動・感情のコントロールが子育てには相応しくない対応となり、様々な悪循環が生じ、子どもへの養育に困難をもたらす結果になってしまう。その他にも三世代間での葛藤や関係性の悪化などを招くこともある。関係者によるチーム支援のアプローチの他に、ピアカウンセリング的に保護者同士で関わりあうことにより、保護者がストレスを軽減し立ち直りの一助となった事例もあった。保護者自身の理解に沿った面談や提案をする事、保護者のこれまでの試行錯誤や努力をまず尊重し、家庭のエンパワメントと親としての成熟に意識を向けて関わっていく必要がある。

③ 地域生活支援

地域での生活を営む中で発達支援を必要とする（あるいは可能性がある）子どもの特性の理解の促進や受け入れの推進など、年間を通じて取り組んできている。その子どもにとって必要と考えられる支援について、ある程度の道筋を立て必要な提案を行っている。関係機関との連絡調整を行い、個別に関する支援の在り方について方針を定める事、また当園を研修の場として公開し、児童発達支援センター機能の理解を推進し、支援を必要とする子どもの理解や具体的な支援方法・その目的など、支援者の資質向上の一助としての役割を果たしてきた。

9. 療育サービス等の利用状況について

① おもちゃ図書館

- ・移動おもちゃ図書館(甘露保育園遊戯室:年8回開催)⇒来館者 240名 ボランティア 41名
- ・青木村図書館への派遣(年2回開催)⇒来館者 39名 ボランティア 9名

② 療育相談 … ST外来相談/11名 OT外来相談/1名

③ あそび虫 … 年9回開催 子ども 100名 大人 117名

④ のびのび教室 … 年24回開催 参加児数 170名

～全体を通して～

平成29年7月に【児童発達支援ガイドライン】が策定された。乳幼児期は発達の基盤作りとなる大切な時期であることから、今後はこのガイドラインを基軸とし、児童発達支援事業共通の枠組みを踏襲しながら、当園の専門性と独自性について事業所間で共有し、理解を深めながら実践につなげていく。

1. 構成
 《職員》 管理者 児童発達支援管理責任者 訪問支援員

2. 訪問先
 上田市公立保育園 (5) 上田市内私立幼稚園 (2) 認定こども園 (1)
 その他公立保育園 (1) 上田市立小学校 (1) 計 9ヶ所・9名

3. 支援実施日数及び実施人員

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
公立保育園	0	2	1	2	2	6	1	6	3	3	1	1	28
私立幼稚園 認定こども園	0	0	1	2	1	1	2	1	2	0	1	0	11
小学校	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0	4

計43回

4. 訪問支援結果と課題

① 地域における子どもの発達支援

今年度は、卒園した児童へのアフターフォローとしての訪問支援は3名であった。うち1名は、保育園移行後の訪問支援から、小学校入学後も引き続き訪問支援の依頼があり、継続支援を行った。小学校では対象児のみでなく、クラス全体に向けての支援が必要であったが、担任が発達支援の意識を高め、視覚支援などを効果的に組み入れ指導に活かすことができた。

保育園・幼稚園では安全確保の観点から、入園後1年間は加配保育士がほぼマンツーマンで関わるが、次年度以降は同様の体制確保はできないと言われ訪問支援を開始したケースもあった。あくまでも次年度は蓮の音こども園での利用を前提とした要請であった。また、年度途中で加配保育士の交代に伴い、対応の変化が生活の不安定さにつながってしまう事例もあった。

訪問支援開始前は、集団生活への不安が大きかったご家族や園も、園のカリキュラムの中で、特性を理解しながら対応することにより、集団生活に適応することができ、訪問支援が予定よりも早めに終結できるケースもあった。

② 地域支援機能強化と関係機関との連携

相談支援専門員を中心に、各関係者がモニタリングに合せ招集されケア会議を実施する。その中で方向性の確認や情報の共有、その後に必要となる支援や対策の検討を行ってきた。利用者自身に支援が必要となるご家庭では、保健師からの情報によって、より丁寧に関わることができ、家庭の様子を確認しながら訪問支援が実施できた。また、訪問支援の要請により、必要な手続きを進めていく段階において、訪問支援の利用が適切かどうかを見極めることにより、既存集団での支援の継続が妥当であるとの結論に至ったケースもあった。このケースがあったことにより、子どもの発達の確認や支援の在り方を見直すきっかけとなったが、結果として無報酬での関わりが多くなるという状態が発生するため今後の課題と言える。

③ 専門性の向上

今年度の訪問支援の対象となる子どもは1名を除き、他は発達障がいの診断を持つ子どもであった。特性に配慮した支援が、支援を必要としている対象児以外の児童にも対応させることができるよう、よりきめ細やかな保育の実践へとつなげていく必要がある。定期的・継続的に行う事業展開の中で、対象児を取りまくそれぞれの関係者の思いを確認した上で調整を図り、助言レベルではない現場に真に役立つ情報の共有や具体的支援の提示と実践までを行えるスキルの獲得が求められる。

◎ 考察・まとめ

子どもが過ごす現場で、その環境の中で支援を組み立て必要な環境を設定していく意味において、この事業は有効性の高い事業である。この事業申請を進めていくことにより、有効性を発揮できるケースもあれば、思いの一致が図れないまま終結に至るケースもある。今後、当園の行う訪問支援の実践に対する客観的な評価や助言が得られ、この事業の標準化につながる流れを築いていくことが大きな課題になると感じているが、現実的にはそのような仕組みが不十分な状況下にあるのが実態と言える。

平成29年度 ともいき宝池慈光 事業報告書

1. 施設の構成 生活介護事業 定員 20名 契約利用者数 25名
 《職員》 管理者 サービス管理責任者 主任支援員 リーダー支援員
 支援員 看護師

2. 利用者市町村別初日在籍人員及び延べ支援日数

＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
上田市	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
東御市	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
千曲市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
坂城町	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
筑北村	-	-	-	1	1	1	1	1	1	1	1	-	8
合計	25	25	25	26	26	26	26	26	26	26	26	25	308
延べ人数	455	453	516	478	441	446	454	429	420	408	431	467	5,398
開所日数	24	24	26	25	23	24	25	24	23	23	23	26	290
1日平均	19.0	18.9	19.8	19.1	19.2	18.6	18.2	17.9	18.3	17.7	18.7	18.0	18.6
利用率	95%	95%	99%	96%	96%	93%	91%	90%	92%	89%	94%	90%	93%

3. 入退所の状況

＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
入所	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
退所	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	1	—	2

4. 年間行事実施状況

月	内容
4	宝池親の会総会・お花見外出・上小スポーツ大会・誕生日会
5	花まつり・希望外出・健康診断・誕生日会
6	宝池親の会家族会・誕生日会・ほのぼの市
7	魂まつり・誕生日会
8	夏祭り・誕生日会
9	てとてと市・誕生日会
10	宝池親の会家族会・希望外出・誕生日会・ハロウィン
11	誕生日会
12	忘年会・誕生日会
1	新年会・誕生日会・まゆだま作り・どんど焼き
2	涅槃会・AED講習会・誕生日会
3	宝池親の会役員会・慰労会・誕生日会・ひな祭り

5. 重点目標の反省

◎ 「個別支援計画の充実と支援の具体的な取り組み」

本人のストレングス視点に着目した個別支援を行うべく、ケース検討を重ねてきた。法人内開催による事例検討会においても、他の事業所職員より貴重な意見を多くいただくことができた。アドバイス等を受けて具体的な支援の工夫を実施し、新たな気づきをご家族と共有し支援内容に取り入れた。それにより個別化による利用者の活躍できる機会・場面を作ることが重要視し支援を実施した。

◎ 「家族支援の充実を図る」

利用者と生活をしているご家族の状況は日々変化している。ご家族の高齢化に伴い、利用者との生活をどのように支援して、将来に向けた話をする場をどのように用意するかが課題であると考えている。29年度にも家族に急を要するケースがあり、短期入所を利用しサービス調整会議を経て施設入所に移行した事例があった。ご家族の利用者に対する思いの深さには敬服するが、短期入所等の利用を勧めていくことで、ご家族には安心していただき、利用者にとってはより良いサービスを提供できるように関係各所との連携を深めていきたい。

◎ 「支援記録の充実と効果的な活用を図る」

法人全体での記録システムの導入から3年を迎え、日々の記録に対しての重要性を職員全員で認識し意識を高めてきた。また、具体的かつ客観的な表現を記録できるように取り組んできた。

6. 利用相談

上田養護学校高等部からの卒業後の進路相談や、高等部2年生の施設見学等を積極的に受け入れ、上小地域の事業所が一堂に会した事業所説明会にも参加をした。稲荷山養護学校・上田養護学校の教職員とご家族の施設見学も積極的に受け入れ、事業所の魅力をプレゼンテーションする機会を多く持つことができた。次年度以降も利用者には選ばれる事業所となるよう積極的に関わりを持っていきたい。

7. 健康・安全

マニュアル（保健・危機管理・要望等解決・虐待防止）を整理し、実動につなげられるよう感染症予防対策（ノロウイルス・インフルエンザ等）に力を入れ、利用者の突然の状態変化に備え、実際の場面に沿った模擬訓練に取り組んだ。その結果として感染症等が発症しても、感染が広がることはなく、成果が出てきたと考えられる。

8. 職員研修

長野県及び長野県知的障がい福祉協会主催の研修会、法人内研修（専門研修・中堅職員研修・リーダー主任者研修・事例検討会）、事業所内研修（リスク研修・虐待防止研修・苦情対応システム研修・感染症対応研修）へ参加した。また、長野県が主催している「障がい者虐待防止・権利擁護研修」に参加した。その内容をもとに、現場での伝達研修を実施し、職員間での周知徹底を図った。

平成29年度 ともいき宝池和順 事業報告書

1. 施設の構成 生活介護事業 定員 30名
 《職員》 所 長 サービス管理責任者 主任支援員 支援員 看護師 事務員

2. 利用者市町村別初日在籍人員及び延べ支援日数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
上田市	33	33	33	32	32	32	32	32	32	32	32	32	387
千曲市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
東御市	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
坂城町	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
筑北村	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
合計	38	38	38	36	36	36	36	36	36	36	36	36	438
延べ数	749	758	799	710	662	718	762	733	718	684	694	755	8,742
開設日数	24	24	26	25	23	24	25	24	23	23	23	26	290

3. 入退所の状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
退所	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2

4. 年間行事実施状況

月	内 容
4	宝池親の会総会、春のお茶会
5	花まつり、希望外出①（ふれあいスポーツ広場）、各種健康診断
6	宝池親の会家族会、希望外出②（カラオケと外食）
7	魂まつり
9	希望外出③（国営アルプス安曇野公園）
10	てとと市、秋のお茶会、宝池親の会家族会
11	希望外出④（ボウリングと外食）
12	利用者忘年会
1	新年のお茶会（初詣）、ボランティア交流会
2	涅槃会
3	年度末慰労会

5. 職員研修

長野県及び県知的障がい福祉協会主催各種研修会、法人内研修、救急救命研修（AED）
 長野県社会福祉協議会主催各種研修会、事業所内研修

6. 生産活動種目及び実績

① 作業種目

受託生産	工業用紙袋加工作業	《鈴与マタイ(株)》
	箱折り作業	《丸福(株)、コムパック(株)》
	土産用菓子箱詰め作業	《豊上東山観光(株)》
	ボール洗浄作業（ボールプール用）	《(有)モードテラ》
自主生産	味遊カフェ営業、道の駅や直売所での委託販売	
	珈琲焙煎作業、クッキー製菓作業（販売・配達）	

② 作業実績

◎収入

受託作業	2,930,385 円
自主生産	13,260,609 円
合計	16,190,994 円

◎支出

作業工賃	6,874,485 円
諸経費	9,316,509 円
合計	16,190,994 円

7. 支援結果及び課題 (『 』内29年度重点目標)

① 『記録のさらなる充実』

ミスヘルパーでの記録の入力については定着してきたが、記録内容については今後さらに深めていく必要がある。タイムリーな情報共有が必要不可欠になっていくため、他の支援員の記録を閲覧する方法、時間が課題となる。

毎月の個別支援会議において、利用者一人ひとりの思いに寄り添った支援内容を検討することで、全職員が利用者の状況を共通認識し、支援にあたることができた。

② 『生産活動の可視化と情報共有』

味遊カフェでの活動は、特に利用者さん一人ひとりが主役になれる場として定着し、利用者さんの生きがいになり得る活動になっている。コーヒーを淹れて、お客様に提供することや、自動焙煎機の操作、コーヒー豆の商品作り、プリンなどのスイーツ作りのように作業種にも拡がりがある。また、カフェの掃除やPOP作り作業などにより関わる事のできる利用者が増えてきている。衛生面においては、個人によって意識の差があるため、必要性について丁寧に説明をしながら、さらに意識付けをしていく必要がある。

気まぐれ屋での活動では、誰もが主役となれる機会を保障し、利用者さんのありのままの姿が地域に受け入れられ、地域と関わる事のできる貴重な場となっている。利用者さんにとっても初めての経験となり、日々の生活面において良い変化が生じた方も見られた。

作業種毎に、一日の流れや作業分担について、分かりやすさを重要視し、可視化に取り組んできた。結果としては、活動一つひとつに見通しを持って取組むことができ、不安を軽減した情報の提供につながった。

③ 『生活支援活動の充実、家族と地域との連携』

新田地区で開催している文化祭に作品を展示させていただくことができ、地域の方に利用者さんの作品を見ていただく良いきっかけとなった。その他にも、味遊カフェギャラリーや公民館、長野県知的障がい福祉大会への展示もでき、利用者さんの活動への張り合いにつながっている。

④ 『法令遵守と守秘義務の堅持』

29年度は、サービス業務管理委員会において作成された法令遵守マニュアルについて、法人全体への研修会を開催し、職員全員が受講することにより周知をすることができた。しかし、この研修会は理解への入り口であり、今後もさらに理解を深めていくためには、研修会及び自己学習を重ねていくことが必要と思われる。

守秘義務の大切さについては、職員の理解が日々の支援につながってきてはいるが、引き続き多くの職員が共通の理解を持ち、実行に移していけるよう日々の精進が改めて重要と感じている。

8. リスク・健康・安全管理

利用者さんの日々の通所経路については、安全に通所できるように支援及び見守りを継続して実施している。

台風や豪雨、大雪等の気象情報を的確に入手することにより、事業所での対応に併せてご家族の協力もいただきながら、安全な通所支援・事業所運営に心掛けている。

感染症対策の徹底及び見直しにより、予防に対しての衛生管理に努めた。

各種健康診断を実施し、その結果を受けてご家族に受診をすすめた。

9. その他

29年度は、初めて上田第三中学校との交流会を実施することができた。有意義な交流会であったため、次年度以降も継続して実施していきたい。

地域に拓かれた事業所としてのアピールを積極的に実施していくことにより、地域からの理解に併せて、新規利用者の開拓につなげていく。そのためには、各関係機関との連携を密にし、より社会のニーズ等にアンテナを高くしていく必要がある。

平成29年度 ともいきライフ 月影 事業報告書

1. 施設の構成 障害者支援施設 (生活介護) 定員 60名
 (施設入所支援) 定員 50名
 (短期入所) 定員 6名

《職員》 管理者 主査 主任 サービス管理責任者 支援員
 主査看護師 栄養士 事務員

2. 利用者市町村別初日在籍人員及び延べ支援日数

市町村\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
上田市	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	264
東御市	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
長和町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長野市	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
須坂市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
飯山市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
千曲市	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
坂城町	16	16	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	182
小川村	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	7
小諸市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
佐久市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
諏訪市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
原村	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
松本市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
小谷村	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
木島平村	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
青木村	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
合計	69	69	68	68	68	68	68	67	67	67	67	67	813
延べ数 (生活介護)	1,379	1,417	1,388	1,417	1,376	1,377	1,411	1,334	1,392	1,357	1,243	1,407	16,498
延べ数 (施設入所支援)	1,486	1,526	1,480	1,512	1,457	1,473	1,534	1,461	1,511	1,439	1,383	1,531	17,793

3. 入退所の状況

\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入所	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
退所	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1
	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

上段：施設入所支援 下段：生活介護（在宅）

4. 短期入所事業の状況（月別利用延べ人数）

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
成人	73	62	35	52	61	60	62	46	33	43	40	50	617
児童	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	4
合計	73	62	35	52	63	60	62	46	33	43	40	52	621

5. 実施した生産活動等支援種目

作業・・・園芸作業、農作業、小牧山霊園作業、上田プラスチック作業等
 その他・・・創作活動、リハビリ支援、歩行支援、地域交流活動、手芸等、調理訓練等

6. 年間行事実施状況

- 4月・・・村上保育園入園式、村上小学校入学式、坂城幼稚園入園式、グループお花見、月礼会
- 5月・・・坂城町こどもフェスティバル、長野県障がい者スポーツ大会、ハローアニマル交流グループ食事会、坂城町手をつなぐ育成会総会、訪問リハビリ
- 6月・・・グループお花見会、わくわくランチ、村上小学校運動会、上平区敬老会
村上保育園交流会、上平区サポーター会議、村上小学校交流会、ご詠歌の会交流会
知障協就職ジョブマッチング
- 7月・・・月影家族部会宿泊研修会、長野女子短期大学ふれあい体験、魂まつり、グループ外出
村上小学校交流会、北信支部視察研修、月影夕涼み会、知障協施設長研修
- 8月・・・坂城どんどん、月礼会、さんさんネット外出、月影家族部会、北信支部代表者会
- 9月・・・北信支部レクリエーション、月影部会日帰り旅行、グループ外出、月礼会
さんさんネット秋の収穫祭、長野県障がい者スポーツ大会
- 10月・・・坂城町レクリエーション、坂城町ふれあいの集い、月影まつり、村上保育園交流
- 11月・・・月影ぽっぽ展、知障協福祉大会（上小）、訪問リハビリ、月礼会
- 12月・・・上平区公民館総会、坂城町町民大会、月影忘年会、月影家族部会、北信支部代表者会
- 1月・・・上平区民新年総会、どんど焼き、グループ食事会
- 2月・・・北信支部代表者会、千曲・坂城事業所説明会
- 3月・・・グループ外出、さんさんネット外出、村上小学校卒業式、利用者自治会選挙
村上保育園卒園式、坂城幼稚園卒園式

7. 職員研修

- 法人外研修（自閉症セミナー、精神科領域支援セミナー、支援スタッフ部会、障がい者施設支援部会、施設長研修会、保健部会、食事支援部会）
- 法人内研修（専門研修、初任者研修、中堅職員研修、リーダー主任研修、他施設研修）
- 施設内研修（リスク研修、虐待防止伝達研修、苦情システム対応研修、メンタルヘルス研修）

8. 支援結果及び課題（『 』内、29年度重点目標）

◎『利用者の想いを確認し、利用者の生活スタイルを確立する』

利用者の日々の生活の中で、本人の「自己決定」「意思決定」を重視し、いつでも利用者が自らの想いを示すことのできる場面を作れるように工夫し、毎月、利用者自治会を開催した。自治会において、示された内容をでき得る限り反映できるよう支援を展開してきた。利用者自治会は、利用者の想い、意見を傾聴できる大切な機会であるため、今後も継続して開催する。また、29年度は、1名の利用者が介護保険施設（特別養護老人ホーム）へ移行となった。本人、ご家族の希望を踏まえ、移行先での体験利用や、ケア会議により移行という結果になった。今後も、利用者やご家族の意向に寄り添える支援を展開していく。

◎『家族との連携をより密にしていく』

利用者の高齢化に伴い、保護者となるご家族が次世代へと移られている利用者も少なくない現状にある。それにより、保護者と事業所との関係性が希薄になってきていることは事実として受け止めなければならない。しかし、最終的に利用者を一人にしないためには、保護者と日頃から関係性を作り上げておくことが必要である。そのために、定期的な家族部会への参加、月礼会への参加、月影まつり等の行事への参加をお願いしている。来所されることが難しいご家族には、月影通信や部会連絡等を郵送することにより情報を提供している。また、各担当者より、電話にて定期的に利用者の様子をお伝えするようにしている。その他に、成年後見制度を希望されるケースもあるため対応していきたい。

◎『職員間のコミュニケーションの充実』

より効果的な支援を展開していくためには、職員間の情報共有・周知徹底が原則となる。それを徹底することが、チームでの支援力をアップさせるといっても過言ではない。しかし、変則勤務によって、職員同士が数日顔を合わせることができないこともある。そのために、朝・夕の引き継ぎ業務や、全体職員会でのコミュニケーションが不可欠である。研修報告においても報告書を書くだけでなく、他の職員へ直接報告することにより初めて周知されるものであるため、各職員の報告能力を向上させていきたい。

平成29年度 と も い き ラ イ フ 住 吉 事 業 報 告 書

1. 施設の構成 障害者支援施設 (生活介護) 定員 30名
 (施設入所支援) 定員 30名
 (短期入所) 定員 4名

《職員》 管理者 サービス管理責任者 主任支援員 リーダー支援員 支援員
 看護師 管理栄養士 事務員

2. 利用者市町村別初日在籍人員及び延べ支援日数

市町村\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
上田市	22	22	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	274
東御市	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
佐久市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
小諸市	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
長野市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
安曇野市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
佐久穂町	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
辰野町	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
筑北村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	31	361
延べ数 (生活介護)	606	636	625	679	657	651	681	652	679	674	594	695	7,829
延べ数 (施設入所支援)	824	842	848	918	885	891	923	894	905	882	814	938	10,564

3. 入退所の状況

\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入所	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1	2
	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
退所	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0

上段：施設入所支援 下段：生活介護（在宅）

4. 短期入所事業の状況（月別利用延べ人員）

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
成人	52	69	66	79	74	78	85	76	70	48	48	80	825
児童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	52	69	66	79	74	78	85	76	70	48	48	80	825

5. 実施した作業支援種目

作業・・・園芸作業、椎茸作業、農作業
 その他・・・リハビリ支援、歩行支援、高齢者グループ支援、足浴支援、絵手紙活動、
 地域交流活動

6. 職員研修

法人内研修～初任者研修・初任者フォロー研修・中堅職員研修
 施設内研修～事例検討会・感染症等の予防及び対応について・虐待防止研修会
 施設外研修（長野県知障協主催各種研修会・県及び社協主催各種研修会・その他）
 『知障協』精神科領域実践支援セミナー・自閉症支援セミナー
 『その他』苦情対応システム研修・長野県障がい者虐待防止、権利擁護研修
 防犯対策研修会

7. 年間行事実施状況

月	内 容
4	家族部会研修会・グループ花見外出
5	伊勢山自治会ふれあい会食会・甘露保育園芋植え交流会・住吉家族部会環境整備 リハビリ講習会・御代田町ふれあい広場・神科地区社会福祉協議会総会・神科小職員交流会
6	ほのぼの市・岩門ふれあい会研修会・神科小PTA交流会・宝池親の会家族会・歯科検診 心電図・内科検診・眼科検診・長野大学生施設見学
7	豊殿小4年生交流・婦人科検診・乳房検診・神科地区防犯・防災協議会
8	夏祭り・住吉家族部会・地域におけるリハビリ講習会・伊勢山長寿会日帰り旅行・防災設備点検 伊勢山ふれあいですいとんの会
9	神科地区社会福祉協議会住民大会・リハビリ講習会・伊勢山敬老会・神科小3年生交流 鍋の日・上田市立第五中学校交流
10	宝池親の会家族会・住吉家族部会環境整備・上田養護学校よつば祭り・小諸厚生病院祭・菅平祭り 千曲荘病院祭・高齢者文化祭・上田市環境フェア・月影まつり・甘露保育園芋掘り交流 神科小まつり・住吉祭り・上野ヶ丘公民館祭り・豊殿小3年生交流
11	総合防災訓練・リハビリ講習会・住吉家族会研修会・立科町社協祭り・神科小交流会 鍋の日・長野大学生施設見学
12	収穫祭・ともいきライフ住吉忘年会・住吉家族部会・歯科検診巡回指導
1	繭玉づくり・どんど焼き
2	鍋の日
3	住吉家族部会総会・リハビリ講習会・鍋の日

：月単位行事 避難訓練・誕生日会・体重血圧測定・茶道・絵手紙・個別外出支援・その他

8. 支援結果及び課題（『 』内、29年度重点目標）

◎『生活介護事業及び施設入所支援事業の充実』

施設入所利用者の最高年齢が81歳、平均年齢が59.3歳となっている。障害支援区分については5.2となっている。障害者支援だけではなく、医療との連携が不可欠であり、高齢者支援の充実のために介護技術・知識の向上も重要である。利用者にとってより良い生活環境を見極めていく視点も重要となっている。

日中活動では、「生産活動」や「創作活動」を中心に、園芸や椎茸などの作業や歩行・リハビリ・おやつ作り・公民館での絵手紙教室参加など満足感が得られるように支援を提供してきた。利用者一人ひとりが生活の中で役割を担い、達成感・満足感を感じられるように今後も支援を進めていきたい。

◎『個別支援計画書の内容充実』

相談支援専門員との連携を図りながら、サービス等利用計画を基に個別支援計画の作成・実行に努めてきた。支援計画の現状を踏まえると、利用者本人目線での長期・短期目標の設定、月目標の設定において具体的な設定が難しかった。そのため、月・半期・1年での評価に客観性が乏しくなっていた。次年度は、目標設定におけるアセスメントの標準化、具体的な目標設定、客観性が保たれた評価ができるよう取組んでいきたい。

◎『家族との連携』

利用者の高齢化だけでなく、ご家族の高齢化や保護者の代替わり（兄弟または甥・姪等）の実状がある。家族部会等への参加も年々少なくなっており、ご家族との連携が薄くなりがちであるが、関係性を保っていく関わりは継続していきたい。また、利用者個々の将来の展望についても、ご家族の意向を確認しておくことで利用者にとってより良い生活環境を保ち安心・安全へとつなげていきたい。その他にも、ご家族自身の状態の変化に伴い、生活が不安定になりつつあるケースが出てきている。そのため、ご家族への支援・サポートも今後さらに重要になってきている。

◎『施設（事業所内外）と自己評価・第三者評価への取組みを図る』

様々な研修に参加していくことで、職員個々の知識レベルは向上しているものの研修会等で得た知識をチームとして活かすための一般化はまだ不十分である。今後もチームとして支援に取組む意識付けを図りながら研修の成果を活かしたい。また、自己評価への取組みを開始して2年が経過するが、職員の意識はまだ低いのが実状である。自己評価の実施、第三者評価を受審する意味合いを認識しながら事業所のサービス向上につなげていきたい。

平成29年度 上田市母子寮 事業報告書

1. 施設の構成 定員20世帯（暫定解除）

《職員》 施設長 主査 主任 母子支援員 少年指導員 個別対応職員 心理担当職員

2. 地区別初日在籍世帯数（上段） 及び人員（下段）

地区\月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
上田市	世帯	4	4	4	3	4	4	4	3	3	3	4	4	44
	人数	13	13	13	11	13	13	13	9	9	9	11	11	138
その他	世帯	14	13	14	13	14	15	14	14	15	14	13	13	166
	人数	36	34	36	33	35	37	34	34	36	34	31	31	411
計	世帯	18	17	18	16	18	19	18	17	18	17	17	17	210
	人数	49	47	49	44	48	50	47	43	45	43	42	42	549

その他内訳

福事 務 社所	世帯 人数	安曇野市		塩尻市		東御市		長野市		大町市		茅野市	
				34	78	1	2	12	24	15	45	12	36
		飯山市		松本		長野		甲府市		都留市		高崎市	
		5	10	6	18	12	24	12	60	12	24	12	24
		千葉市		藤岡市		佐野市							
		12	24	7	14	4	8						

3. 入退所世帯の状況（月途中の入退所あり）

\月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入所	世帯	0	0	1	2	1	0	0	1	0	1	0	1	7
退所	世帯	1	0	2	0	0	1	1	0	1	1	0	1	8

4. 年間行事実施状況

月	内 容	月	内 容
4	お抹茶会・お花見	10	料理教室・お楽しみ会・おやつ作り
5	端午の節句・野菜作り	11	料理教室・お抹茶会
6	料理教室	12	餅つき年末お楽しみ会・リース作り・しめ縄作り
7	会食会・おやつ作り	1	新年お楽しみ会・会食会・料理教室・お別れ会
8	会食会・七夕祭り親睦会・テイクアウト・料理教室	2	節分豆まき会・料理教室
9	料理教室・お別れ会	3	進級お祝い会・各種会食会

避難訓練は、想定を変えて毎月実施。消防署員による実施指導（日曜日・年1回）

消防署への通報訓練（年2回）

その他行事（運営委員会活動会議…年2回、子ども会会議…年5回等）

5. 職員研修

（法人内研修会）

- ・応用行動分析研修会 6回
- ・事例検討会 5回
- ・虐待防止推進月間講演会 1回
- ・リスク委員会講演会 1回
- ・法令遵守マニュアル研修会 2回

（法人外部研修会）

- ・第57回関東ブロック母子生活支援施設研究協議会
- ・長野県母子生活支援施設連盟職員研修会
- ・児童福祉施設心理担当職員合同研修会
- ・長野県臨床心理士大会
- ・平成29年度社会的養護を担う児童福祉施設長研修会

6. 施設設備

- ・寮庭他 立ち木の剪定 2回
- ・壁紙修理 天井、換気扇交換 5部屋

7. 援助結果 ～重点目標の結果及び課題～

○平成29年度は、緊急避難1世帯を含む利用26世帯67人であった。うちDV被害者は19世帯49人（73%）、経済的理由は7世帯18人（27%）であった。

- ① DV被害者・児童虐待・周産期の女性（特定妊婦）・障害年金受給者・発達障害児と難しい課題を抱えた入所者を受け入れ、支援を実施している。精神科外来の受診者は5名おり、通院時の同行支援と同席を行い、主治医と連携して状態を把握している。また、特定妊婦（内縁男性からのDV・駆け込み出産）の方を受け入れ、出産後新生児からの子育て支援を実施してきた。29年度認知されていない私生児は11名おり、個々に複雑な事情があり適切な支援に心掛けてきた。30年度は周産期の妊婦を積極的に受け入れ、切れ目のない支援を実施していく。
- ② 子どもと母親の希薄な関係の再構築、特に発達障害児を育てる母親への支援を強化し配慮をしてきた。障がいの特性を伝え、専門医へつなげて受診時の同行支援を実施している。また、親族との気持ちの行き違いから音信不通になってしまい、関係性が崩れかけた家族の再構築の支援を実施している。両親または母親に来寮していただき、面談を複数回実施することにより、お互いに必要とする関係になり、感謝されたケースもあった。さらに、電話で幾度となく現状を丁寧に説明することにより、母親から歩み寄ってもらえる姿が見られた。
- ③ 虐待児童・発達障害児が寮内や学校・保育園での生活に不適應が生じてしまわないよう、学校・保育園・児童相談所と情報交換を定期的実施し、連携を深めている。必要に応じて要保護児童対策地域協議会を利用している。心理担当による心理療法（SSTを含む）を実施。29年度から始めた交流カフェは、お茶のみ感覚で利用が増えてきている。心理担当としては、業務の実施にあたって時間が足りないという思いもある。
- ④ 29年4月からのアフターケアの実施は29世帯。電話相談・年金の手続き・各諸手続き・受診時の同行・法律相談（相続）・食材の提供及び退所後の子ども食堂の利用児の送迎等、多岐に渡って支援を実施している。

8. 寄付物品

- ・学校図書館に良い本いっぱい運動推進連盟から 児童書89冊
- ・(株)協和 協和ふわりい基金から ランドセル3個

資料

（退所 8世帯の状況）

（緊急一時受入れの状況）

（新規入所 7世帯の状況）

親元へ	1世帯	DVによるもの	1世帯	DVによるもの	5世帯
他の福祉施設へ	2世帯	実利用者人数	3人	経済的によるもの	1世帯
民間アパートの確保	5世帯	実利用日数	3日	その他	1世帯
		延利用人数	9人		

※ 1世帯は母子別々の福祉施設へ

(別紙)

平成29年度 上田市母子寮 心理療法実績報告書

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
心理療法													
個別療法	6	13	10	12	9	11	10	7	6	10	8	11	113
SST (個別、グループ)	1	9	6	7	10	9	5	6	5	3	5	2	68
(小計)	7	22	16	19	19	20	15	13	11	13	13	13	181
生活場面面接	30	38	43	42	38	31	28	23	28	24	14	28	367
心理検査	0	3	2	2	1	0	0	0	0	1	0	0	9
施設職員等 への助言	5	4	4	5	3	4	4	5	3	3	5	3	48
処遇検討会議 への出席	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
その他 学習支援・集団活動	23	18	16	18	19	21	16	9	13	5	6	6	170
(合計)	65	85	81	87	80	76	63	50	56	46	38	50	777
他機関への紹介 情報提供	0	1	0	3	1	1	0	1	0	1	1	1	10

① 心理療法

個別療法は113件であった。この件数は決して多い数ではなく、対象となる人数と必要頻度から考えると250件程度できることが望ましいと考える。障壁となっている要因は、時間の調整であり、次年度に向けて工夫していく。各ケースにおいて、実施頻度が上がれば新たな課題も生じるが、効果の出方もまた変わってくると思われる。

小グループでのSST（小学生対象）は継続して実施できたことを評価したい。子どもにとっては、日常生活の場面で生じるトラブル等への対応方法や感情処理の方法を学ぶ良い機会となっている。ただ、29年度後半は欠席者が多くなる傾向が見られた。原則は参加自由であるが、出席につながる動機づけの工夫が必要となっている。

② 集団活動

運動系の活動として空手の時間をとってきたが、参加していた方の退所や開催機会の減少という実態がある。改めて希望を募り、希望者がいれば活動として継続していく。しかし、利用者のニーズによっては、他の軽運動を検討していく。

表現系の活動としては、週1回18時からの1時間を設定し、母子を対象にした活動としていたが、小学生のみの参加がほとんどであった。内容・参加者から考えて実施を日中に変更し、土曜・放課後の活動時間を豊かにすることが先決であるとの結論に至った。よって、次年度は時間を変更して実施していく。

③ 学習支援

宿題を見る、支援するという点においては実施できている。しかし、特別なニーズを持つ子どもが多くなってきている現状では、そのニーズに気づきその子に合わせた支援を行うには、それなりの知識と技術、そして時間が必要である。この点においてはまだ不足を感じている。勉強が全てではないが、支援の方法を検討していく必要がある。

④ カフェ

29年度本格的に始めた活動である。相談という言葉を使用すると敷居が高く感じてしまう方、身構えてしまう方もいるため、「お茶でも飲みに来ませんか？」という形で、気軽に来ていただける機会を提供することを目的としている。結果としては、年間で26回開催し、延べ168名の利用があった。うち母子での利用は47組、子ども同士での利用は20組であった。利用される方、利用されない方と二極化する傾向にあった。

<総括>

業務の実施にあたって、時間が足りないという感覚が残った。次年度に向けて工夫して時間をつくり、利用者・現場ニーズにあった業務を柔軟に計画・実施していきたい。

1. 事業所の構成

- ◎新田ホーム（定員 3名） 利用者男性 3名（上田市 2名 筑北村 1名）
3月に入所者変更（上田市 2名 千曲市 1名）
- ◎和ホーム（定員 3名） 利用者女性 3名（上田市 2名 千曲市 1名）
- 《職員》 ホーム長 サービス管理責任者 生活支援員 世話人

2. 利用の状況

年間を通して、定員6名に対し実員6名での推移となった。3月に1名（70歳）が退所し、新規で1名（18歳）の入所となった。

3. 生活費用（毎月の一人当たりの負担額）

	新田ホーム	和ホーム	備考
生活費	35,000円	35,000円	食費・光熱水費等
家賃	10,000円	13,750円	旧定員割（4名）

4. 利用者の傾向

当ホームは閑静な住宅街にあり、交通アクセスの良い環境に設置されている。しかし、大型ショッピングセンターや、医療センターなどの規模の大きい施設が近隣にあるため、路線に隣接していることもあり道路事情としては交通量が多い。交通事故に遭遇しないように日中サービス事業所への通所時には、付添いを行うなど、安全に留意した支援を行っている。利用者6名のうち5名が法人内の事業所に通所しており、ホームは日中活動の疲れを癒す場となっている。利用者の高齢化に伴う諸課題においては、丁寧な対応を心掛けてきたが、認知症の進行には如何ともしがたく、支援の提供場所を障害者支援施設に移行した事例が1件あった。

5. 支援結果及び課題（重点目標の反省）

『生活の拠点として人生を描ける場所になるよう努力する。』

利用者の生活歴や、人生の経歴をよく理解することにより、アセスメントを通じて支援に必要とされる基礎的な情報を職員間で周知・共有していく取組みを実施した。また、定期的に家庭訪問を実施し、ご家族とも情報の共有、連携を深めた。今度とも利用者が「今」と「これから」の人生を楽しく意義のあるものにしていくことに留意して支援を実施していきたい。

『生活習慣病の予防に努める。介護予防の考え方に学ぶ。』

糖尿病等の疾患により通院を継続している利用者が2名となっている。通院という支援は実施できているが、利用者個々に自覚していただくことは困難な状況にある。また、一定の年齢を迎えた利用者に対しては、「介護予防」といった視点を持つていくことが大切だと感じてきている。その具体的な内容としては、「運動機能の維持・向上」「栄養改善の取組み」「口腔ケアの取組み」「閉じこもりの予防」「うつ病の予防」「認知症の予防」と幅が広いものであるが、上田市より発行されているリーフレットを活用して予防に向けて取組めるものを増やしていきたい。

『生きがいつくりを行う。地域の行事・イベントに参加する。』

29年度の年間行事として、月1回の食事会を取り入れてきた。公共の施設に行き、食事の場面においてテーブルマナーを習得するだけでなく、出掛けることにより日々の生活に張りを持たせ、明日への意欲を向上させることができた支援であった。利用者にとっては、外出という楽しみの提供ともなり、団らんの場面ではお互いの意思疎通を図る非常に良い機会となった支援であったため、今後も継続して実施していく。

6. 安全・健康

地域で暮らすということは、様々なリスクと対峙していくことでもある。例としては、訪問セールスによる商品の勧誘や、夜間の防犯など継続して注意を喚起していかなければならない課題は多くある。問題を早期に発見するためには、利用者自身の困りごとをしっかりと丁寧に聞き取ることがより重要になってくる。29年度の中では、利用者が散歩に出かけた際に外部の方と知り合いになり、その方と金銭や物の授受を行うという約束をしてしまい、その後利用者が困ってしまったケースがあり、職員がその相手の方と直接話し合うことにより問題の解決を図るといったものがあった。

7. 職員の研修

上小連協主催の地域生活支援部会の研修会に参加し、上田警察署員による防犯についての研修を受けた。また、長野県主催の障がい者虐待防止研修の伝達研修を行った。

8. 施設整備

ここ数年の間で、全国において高齢者グループホームの火災により、大勢の被害者が出る事故が頻発している。それにより、共同生活援助事業所においてスプリンクラー等の消防設備の設置が条件によって義務化されている。このため当ホームにおいても、スプリンクラー設置等の対処を実施した。その他の日常的な修理修繕においては、必要に応じて機敏に対処した。

9. 今後の展望

ホーム全体の支援内容としては現状を維持しつつ、利用者に温かな支援が提供できるよう職員個々の資質向上を継続して図っていききたい。そのためには、職員研修は必要不可欠なものであり、利用者の個々の疾患や障がいの特性をしっかりと把握したうえで、その全体性を理解していくよう努めたい。また、利用者同士の関係性の調整においては、難しい場面も想定されるが、自己の主張を尊重しつつもお互いの折り合いをどう調整していくかが利用者にとっても課題と考えられる。

1. 施設の構成

《職員》 管理者兼相談支援専門員 主任兼相談支援専門員
相談支援専門員 支援員

2. 指定障害児相談支援 指定特定相談支援事業所の実施状況

【指定障害児・指定特定相談支援事業】

＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実施総件数	33	27	56	33	16	63	53	25	39	29	15	101	490
モニタリング・者	6	17	9	7	3	15	10	6	25	24	9	20	151
モニタリング・児	15	0	15	1	1	32	17	5	5	2	1	17	111
モニタリング計	21	17	24	8	4	47	27	11	30	26	10	37	262
計画作成・者	10	7	28	23	10	16	25	13	8	3	5	10	158
計画作成・児	2	3	4	2	2	0	1	1	1	0	0	54	70
計画作成計	12	10	32	25	12	16	26	14	9	3	5	64	228

昨年度と同様ではあるが、引き続き計画の更新、モニタリングが主な業務である。新規での契約となる方については、蓮の音こども園入園児・保育所等訪問支援利用児が主となっている。

29年度において成人の新規契約の方は1名あった。養護学校卒業後、上田市内に就労し、生活の場での支援を必要としていたケースであったため、法人内のグループホームへの入所に伴い、計画相談も契約となった。児童については、蓮の音こども園卒園児2名が、他の法人事業所とのやりとりに支障が生じたとの理由により、計画相談を再契約することとなったケースがあった。

3. タイムケア事業実施状況

【タイムケア事業実績】

タイムケア登録者 63名

＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
28年度(人数)	14	16	20	18	17	21	15	18	15	17	17	19	207
29年度(人数)	8	7	7	8	7	9	6	8	9	8	6	6	89
比較(29-28)	-6	-9	-13	-10	-10	-12	-9	-10	-6	-9	-11	-13	-118

4. 相談支援の継続実施

29年度は、成人の方が162名、児童の方が78名（蓮の音こども園39名、保育所等訪問支援9名、稲荷山医療福祉センター2名、放課後等デイサービス11名、来年度蓮の音こども園入園児17名）の計画相談を実施した。定期的な計画相談の実施であり、月ごとは上記の表のとおりである。

定期的なモニタリング、計画更新以外の相談としては、利用者本人の高齢化や怪我等によるニーズの変化から、施設入所支援や共同生活援助等への利用サービス変更依頼、保育所等訪問支援事業の利用開始希望などがあった。

今後は、利用していただいている方の高齢化に伴う課題が出てくることが予想されるため、これまでの実践に学びながら、事業所との連携を密にして相談支援としての役割を果たしていくことが目標と考えている。また、モニタリングの実施時期については、件数が多いこともあるため、関係各所と連携し誤りのないよう実施していくことを目標としてきた。意識付けを徹底したことにより順調に経過しているため、今後も注意して業務にあたっていく。

相談支援専門員の体制としては、29年度は5名で進めてきたこともあり、より確実な実施が可能となってきた。さらに研鑽を積み、良質な相談支援の提供に努めたい。

5. 計画内容の質の確保

特定相談支援では、計画の更新、モニタリングが主業務となっている。サービス担当者会議（ケア会議）、関係者会議、事業所訪問などを実施していくことが必須である。現在、複数の事業所を利用されている方もおり、ケア会議については関係者が確実に集まることにより、より丁寧な実施を継続している。引き続き利用者・ご家族の生活の質向上に寄与していくことが課題となっている。

障害児相談支援においては、蓮の音こども園を利用している児童が主であった。利用されている方本人、ご家族からは計画相談の実施については、支援の一つとして定着し、生活の振り返りの機会となっている。また、特に市外の方のモニタリングについては、ケア会議の実施が定着してきている。

30年度も、アセスメント方法やモニタリングの設定、利用者同意について、より誠実な対応が求められてきている。今後も適切な実施に努めたい。

各サービス提供事業所の個別支援計画との連動が引き続き課題である。適切に情報を提供・共有しながらの実施につなげたい。

6. 地域との連携

地域共生社会の実現を考えようとの動きが強い今日、「我が事・丸ごと」の理念、すなわち地域福祉力強化の道筋に対して、ほっととしても各種関係機関との連携はもとより、利用者を中心に「支えるネットワーク」の構築を図ってきた。計画相談を通じて、地域での多様な主体との信頼関係の構築をめざし、誠実な支援の実施、継続に努めてきた。

7. 記録の管理

記録については、法人全体で取り組んでいただき、整備が進んだ。30年度は3年ごとの報酬改定の年にあたり、各種加算の記録方法についての検討が必要となっている。

8. 法令遵守と守秘義務の堅持

日々の業務にあたり、常に意識して対応していくことと、学習の継続が必要と考えている。

相談支援の実施にあたり、家庭訪問・モニタリング頻度の通知等を確認しながら市町村と協議の上、より適正な支援をめざし見直しを行っている。

9. 職員研修

- ①法人内研修：法人事例検討会、虐待防止・権利擁護伝達研修、要望等解決委員会、地域福祉応援体制会議、法人内相談支援研修の企画・実施 等
- ②法人外研修：ケアマネ部会 等
- ③自主研修：各種講演会や見学会 等